

高校生 ICT 2015 Conference

in 北海道

言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！

～ 高校生のボクたちだから ～

開催報告書

第二回 2015年10月18日（日）

【会場】内田洋行・札幌ユビキタス協創広場 U-cala

主催

高校生 ICT Conference 実行委員会

共催

総務省、文部科学省、内閣府、経済産業省

目 次

1. 開催概要	1
2. 高校生 ICT Conference 2015 地域開催	3
3. 高校生 ICT Conference 2015 in 北海道 第二回 開催概要	3
4. 主担当	10
5. 高校生 ICT Conference 2015 サミット	10
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会	10
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応	11

1. 開催概要

名 称：	<p>高校生 ICT Conference 2015</p> <p>テーマ</p> <p>言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！</p> <p>～ 高校生のボクたちだから ～</p> <p>第1部「大人のルール&マナー」</p> <p>第2部「大人が作った子供のルール&マナーを考える」</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生 ICT Conference 実行委員会 (構成：安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会) ● 長野教育委員会 (長野のみ) ● 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会 (福岡のみ) ● 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 (大分のみ) ● 特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム (神奈川のみ)
共催：	<p>内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、帝塚山大学 (奈良のみ)、</p> <p>大分県教育委員会、大分県高等学校 PTA 連合会 (大分のみ)、</p> <p>神奈川県教育委員会 (神奈川のみ)</p>
後援：	<p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、全国高等学校情報教育研究会、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、いしかわ青少年安心ネット環境推進連絡会、北陸携帯電話販売店協会、社団法人せんだんの会</p>
協賛：	<p>株式会社サイバーエージェント、グーグル株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、グリー株式会社、LINE 株式会社、株式会社ラック、株式会社メディア開発綜研</p>
協力：	<p>アルプス システム インテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、一般社団法人情報教育研究所、デジタルアーツ株式会社、株式会社ミクシィ (順不同)</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。</p>

	<p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>2015年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに石川、長野、神奈川、福岡、東北を加え、地域を拡大して開催します。</p> <p>さらに当事者たる高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者はサミットにより提言をまとめ、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省で発表を予定しています。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>・第一部 「大人のルール&マナー」 (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議イントロダクション (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評</p> <p>・第二部 「大人が作った子供のルール&マナーを考える」 (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議 (4) グループ発表 (4) 総評 (5) サミット参加者発表</p> <p>【サミット】「言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！」 ～ 高校生のボクたちだから ～」 (1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 総務省、文部科学省、経済産業省にて成果・提言報告及び意見交換</p>
各開催地募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>

参加・参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference 2015 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 齋藤長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 研究所） 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会代表・消費者団体訴訟室長） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 齋藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>

2. 高校生 ICT Conference 2015 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生が 2 つのテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	第 1 回	第 2 回	会場
地域開催	北海道	2015 年 9 月 27 日（日）	2015 年 10 月 18 日（日）	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	石川	2015 年 9 月 13 日（日）	—	金沢商工会議所
	長野	2015 年 9 月 5 日（土）	2015 年 10 月 3 日（土）	松本駅前会館
	東京	2015 年 10 月 11 日（日）	—	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2015 年 10 月 4 日（日）	—	岩崎学園
	大阪	2015 年 7 月 25 日（土）	2015 年 9 月 20 日（日）	① 内田洋行 ②大阪私学会館
	奈良	2015 年 7 月 26 日（日）	—	帝塚山大学 東生駒キャンパス
	福岡	2015 年 9 月 12 日（土）	—	ガスホール
	大分	2015 年 8 月 29 日（土）	—	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
サミット		2015 年 11 月 3 日 13:30～17:00		東京ユビキタス協創広場 CANVAS
最終報告会		2015 年 12 月中旬頃		

3. 高校生 ICT Conference 2015 in 北海道 第二回 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 66 名の参加者を得て、「大人が作った子供のルール&マナーを考える」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 主旨説明 羽衣学園高校 米田 謙三 先生</p>
----	---

高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れを紹介しました。また、11月の東京サミットに送り出す代表校選出の方法についても紹介しました。

開会の挨拶

北海道総合通信局情報通信部電気通信事業課 中野 正人 様

フィルタリングに関する法律があること。自転車の乗り方を具体例として、インターネットとのつきあい方をお話いただきました。あわせて、総務省の情報モラル・リテラシー向上の取り組みを紹介いただきました。

第一部 事業者による講演

「ルール&マナー」を考える際の予備知識

LINE 株式会社 政策企画室 高橋 誠 様

ルールを考える際、どのように考えればよいか、気をつけるべきことは何かについてお話いただきました。

まず、「悪口を言ってはいけない」という具体例を出し、なぜこのルールを作る必要があるのか、どういう状態だと守られていると言えるか、どうやったら維持できるか、ということをお話いただきました。

そして、インターネットの特徴（公開される、記録される、拡散する等）についても触れられ、特徴を踏まえて、ルールを作ることが目的になるとそこで思考停止してしまう。ルールを作る際は『最終的にどういう状態になることがよいか』『ルールを作ることが目的ではなく自ら考え続ける』ということをお話してくださいました。その上で、ルールを決めて実行するだけでなく、必要に応じてルールを見直す方法も事前に考えておくなど、PDCA サイクルを考えよう、とお話いただきました。

参加校 学校紹介 および グループ分け

参加学校ごとに簡単な自己紹介を行いました。

自己紹介で少し緊張感も和らぎました。その後、6つにグループ分けしました。

第二部：熟議「大人が作った子供のルール&マナーを考える」

グループに分かれ全国消費生活相談員協会北海道支部、(一社)北海道消費者協会、(一社)LOCAL、目白大学や事業者の方等がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。高校生たちは付箋紙に考えていることを提示していき、活発に意見を出し合っていました。ネットの問題について、大人が知らな過ぎるといった問題点を提示しつつ、その大人に向けた発信方法を検討しているグループもありました。ルールについて深く考え、分析したグループもありました。そこから、今回のテーマである「大人が作った子供のルール&マナーを考える」ことについて、「高校生だから言える提言」をキーワードに、付箋紙などを使いまとめました。付箋紙に書き出して貼り付けしていく中で、出された意見を整理分類して、最後に、グループごとにパソコンを使ってプレゼンテーションソフトでまとめました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありま

した。

また、熟議には企業の方もサポーターとして入っていただき、専門的な質問に答えてくださいました。

第三部:グループ発表

・グループ発表（各グループ4分程度）

各グループ4分程度で発表を行いました。

各グループは、模造紙のまとめとプレゼンテーションソフトを上手に活用しながら堂々と発表していました。

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日の東京サミットに行く代表校を選ぶ投票を行いました。

その結果、北海道札幌東豊高等学校が代表校に選ばれました。

(グループ発表概要)

第1班 テーマ「私たちが気になったルルー子供に対するスマホの利用制限について」

・家庭で設ける時間制限ルールの良い点は、「自由な時間ができる。ネット利用時間が短くなる。家族とコミュニケーションが増える。」ということ。その他、セキュリティ面でも安心ということ。

・悪い点は「緊急時に連絡がとれない。友達とコミュニケーションが減る。」ということ。

・子供が納得できるルールを作るには、「親と子の使用条件は同じにする。やるべきことが終わったら自由に使える時間を与える。」ことを認めてほしい。また、「料金は親が払うのだから、言うことを聞きなさいという脅迫は止めてほしい。」という意見が出た。

・ルールは押しつけでなく、普段から親子のコミュニケーションを大切にし、しっかり話し合って決めると良い。

第2班 テーマ「僕たちの伝えたい事」

・大人が作ったルール&マナーで出された意見は、学校によってスマホの使用制限に違いがあること、フィルタリングで見られない情報があること。その他、使用時間と機能制限に関することである。

・高校生の私たちが伝えたいのは、ルールの目標をはっきりさせること。ルールが十分生かされていない面があるということ。フィルタリングで詐欺や有害サイトを完全に防ぎきれないのは、ルールが生かされていないのではないかとということ。

・子供たちに大人の意見を押しつけないで欲しい。大人や親が決めたルールがきつすぎて必要な情報が得られない。話し合いで自由な部分を認めることも必要。

・ルールは誰がどのように作るのか。大人が勝手に作ったルールを押しつけるのではなく、子供と話し合っ、お互いが納得できるものがある。

第3班 テーマ「SNSを使いやすくするためには？」

・ルール的前提となる知識について問題点を考えた。「初心者にとって使い方がわかりにくい。専門用語が多い。マナーを学ぶ場がない。個人情報を守る手段を知る方法がない。」ということについて解決策を話した。

・私たちが考えた解決策は、実際に操作しながら使い方が覚えられる初心者向けのチュートリアルを追加する。リンクを貼って専門用語の解説を載せる。自分たちが知っているマナーを守ること。SNS も現実世界と同じという意識を常に持つて使うこと。個人情報はできるだけ載せない。周囲の人にも注意することなどである。

・企業には、私たちが知る機会、学ぶ場所を作って欲しい。また、SNS など偽名で登録できることについても説明を追加して欲しい。

・私たちができることは、現実でも「悪口は相手に言わない。」という意識を SNS においても常に持つこと。企業に対しては、使い方やトラブルが起きたときの対処について、初心者にもわかりやすい説明をお願いしたい。初心者である私たちが、一定の知識を持てばトラブルは減ると思う。

第4班 テーマ「将来のネットに関するルール・マナー」

・LINE の既読無視トラブル、相手が不快になるような発言、他人が不快になる画像や映像をツイートすることなど、身近にあるネットの問題を話し合った。

・携帯依存によって寝不足、学力低下、ネット依存によるコミュニケーション能力の低下など、現実に悪影響が出てきた。それで、ルールや決まりができた。2009 年、石川県の条例で小中学生の携帯所持禁止ルールが決まった。しかし、これではモラルを育む機会を奪ってしまうと思う。小さい頃から段階的にルールやマナーを作っていくべきだと考える。

第5班 テーマ「大人たちよ！ボクたちに任せてくれ！！高校生のボクたちだから言えること」

・問題点としては、フィルタリングによって取得できるアプリに制限がかかってしまうこと。ネットも制限がかかり、必要な情報が閲覧できない場合がある。また、端末は、寝る前の使用禁止などは親が利用制限をかけている。SNS では他人との会話が制限されてしまうという意見が出された。

・自分で使う以上、リスクは自分で考えることが必要。SNS で知り合った人に、会わないように注意することも重要。

・LINE や Twitter の仕組みを親が理解していないため、親の作ったルールは説得力がない。親も使ったうえで仕組みを理解して、親子が納得できるルールを作るようにするとよい。

・アプリの会社や携帯会社は売りたいがため、あまりデメリットを言わないだろうと私たちは思っている。親子で話し合っ規則を考えることが重要。

・小中学生は携帯を持ち始める時期であり、年齢に見合ったフィルタリングは必要。一定の年齢に達すればいらないと思うが、自分でどのようなサイトか判断できる能力を持つことが大切。

・依存者の声を聞いて欲しい。リスクはわかっているが、Twitter で LINE ID を交換している。フィルタリングしても抜け道がある。ルールも、依存している人には

歯止めがない。本体を取り上げるのが一番。

第6班 テーマ「子供に課せられた規制」

・私たちはまだ責任をとることができない。大人からいろいろな規則を言い渡されるが、その規則について私たちは毎日考えている。たとえば、信号のない交差点をどうしても渡りたい時はどうするか。自分は車が多く通る道路でなければ、斜め横断してしまう。パソコンでアダルトサイトを見たいけれど、規則では禁止。皆さんはどうするか。規則を守ることは難しい。

・世代による常識の変化は思ったより大きく激しい。インターネット、SNS の普及で日々変化している。昔のルールに、さらにルールを付け足していくだけでは、私たちは納得できない。時代にあったルールに変えてしていく必要がある。

・大人たちが、子供が気に入らないルールを変えていく、というのは違う。変えていくにしても、いろいろな人の意見を取り入れると合わなくなってしまうものが出てくる。何でもかんでも子供たちが言うままにルールを変えると、リスクが増えることになって、ルールとして成り立たなくなる。何が良くて、何が危ないのかわかるように簡単に示すこと。子供たちには何が危ないのか、子供自身に考える機会を与えることが必要。

全体講評：北海道情報大学 高井 那美 様

はじめに、「無事2回目が終わって良かった。今回で2回目の生徒さんは積極的に発言していたが、今日初めて参加した生徒さんも、負けないで真剣に意見を戦わせていた様子が伺え感心した。前回は事例や問題点を言うだけで良かった。今回は2回目ということもあり解決策を考えなければということで、それを具体的にまとめるのは難しかったと思う。」と話されました。

次に、各グループの発表について、以下のとおり講評をいただきました。

第1班

・家庭での親子のコミュニケーションに着目して、それを大切に思っていてくれていることがうれしかった。

第2班

・ルールの必要性について、どうしてルールが必要なのか。目標をはっきりさせなくてはいけないのか、こだわりをもっていた点が良かった。

第3班

- ・解決策に注目し、どう解決すればよいか丁寧に話していた。
- ・特に、企業に対し学びの場を作る要望を出していたのが良かった。

第4班

・何かうまくできないと、それがかえって厳しいルールに繋がることに着目していた。

	<p>・親への啓発も含めて、小さい頃から段階的にマナーを学ばせる提言が良かった。</p> <p>第5班</p> <p>・タイトルが「ボクたちに任せてくれ」と頼もしかった。</p> <p>・一旦良いことを言っておきながら、最後に依存者の声として心の本音を聞かせおもしろい構成。そこがルールづくりの難しさを物語っており、実際守らせるにはどうしたらいいか難しい、というのが依存者の生の声でわかった。</p> <p>第6班</p> <p>・時代とともにルールを更新しないといけないところを強調していた。</p> <p>・話し方の導入は、つかみはオクケーという独創性を感じて良かった。</p> <p>最後に、「ルールをどう守らせるかというところに、今日は至らなかった。ルールをこうしたら、ああしたらと言うのは簡単。皆さんなりのルールが出なかったように感じる。自分たちが大人をあとと言わせるルールまで出せなかったのではないか。皆さんがこれからのネット社会を引っ張っていく。これから、どういうルールを作って、どう守らせていくのかを皆さんに考えてもらいたい。自分たちで何とかしたいという思いは伝わった。よりよいネット社会を皆さんで作ってもらいたい。若い皆さんの意見を直接聞けて勉強になった。」と全体講評をお話いただきました。</p> <p>最後に、米田先生から「今日で終わりではなくて、学校に戻ってぜひこの取組を広げてもらいたい。」と話がありました。</p>
参加校：	北海道札幌手稲高等学校、北海道札幌東豊高等学校、北海道旭川工業高等学校、北海道札幌旭丘高等学校、北海道大麻高等学校
日時：	2015年10月18日（日）13:30-17:00
場所：	内田洋行・札幌ユビキタス協創広場 U-cala 北海道札幌市中央区北1条東4丁目1-1 サッポロファクトリー1条館1階
参加人数：	熟議参加生徒 37人 見学者 29人（教員・教育関係者・その他） 合計：66人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第1班】7人 北海道大麻高等学校 1年 女子 北海道大麻高等学校 1年 女子 北海道旭川工業高等学校 2年 女子 北海道札幌東豊高等学校 1年 女子 北海道札幌東豊高等学校 2年 男子 北海道大麻高等学校 1年 男子 北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子 〔ファシリテーター〕

一般社団法人 LOCAL 蒲田 拓也

【第2班】6人

北海道札幌東豊高等学校 1年 女子

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道大麻高等学校 1年 男子

北海道札幌旭丘高等学校 1年 女子

北海道札幌手稲高等学校 2年 男子

北海道札幌東豊高等学校 2年 男子

〔ファシリテーター〕

目白大学 金子 真志

【第3班】6人

北海道札幌東豊高等学校 3年 女子

北海道札幌東豊高等学校 2年 男子

北海道大麻高等学校 1年 男子

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道札幌旭丘高等学校 1年 女子

北海道札幌手稲高等学校 2年 女子

〔ファシリテーター〕

株式会社オキット 當山 達也

【第4班】6人

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子

北海道札幌手稲高等学校 2年 男子

北海道大麻高等学校 1年 男子

北海道大麻高等学校 1年 男子

北海道札幌東豊高等学校 1年 女子

〔ファシリテーター〕

一般社団法人 LOCAL 三谷 公美

【第5班】6人

北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子

北海道大麻高等学校 1年 男子

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道旭川工業高等学校 2年 男子

北海道大麻高等学校 1年 女子

北海道札幌東豊高等学校 1年 女子

〔ファシリテーター〕

一般社団法人 北海道消費者協会 田原 太志

	<p>【第6班】6人</p> <p>北海道札幌東豊高等学校 2年 女子</p> <p>北海道大麻高等学校 1年 男子</p> <p>北海道旭川工業高等学校 2年 男子</p> <p>北海道大麻高等学校 1年 女子</p> <p>北海道大麻高等学校 1年 女子</p> <p>北海道札幌旭丘高等学校 1年 男子</p> <p>[ファシリテーター]</p> <p>全国消費生活相談員協会北海道支部 山口 博美</p>
--	--

4. 主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	白戸 他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	工藤	庶務
総務省 北海道総合通信局	中野 他	現地調整、受付、記録
全国消費生活相談員協会北海道支部	山口	ファシリテーター
一般社団法人 LOCAL	三谷 他	ファシリテーター、機材準備等
NPO 法人 NEXTDAY		機材準備等
株式会社ディー・エヌ・エー	西、朝倉	ファシリテーター補助
各地協力団体、事業者等		講演、現地調整、ファシリテーター、他
内田洋行	細井、福井	会場設営、機材準備等

(開催後の予定)

5. 高校生 ICT Conference 2015 サミット

高校生 ICT Conference 2015 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

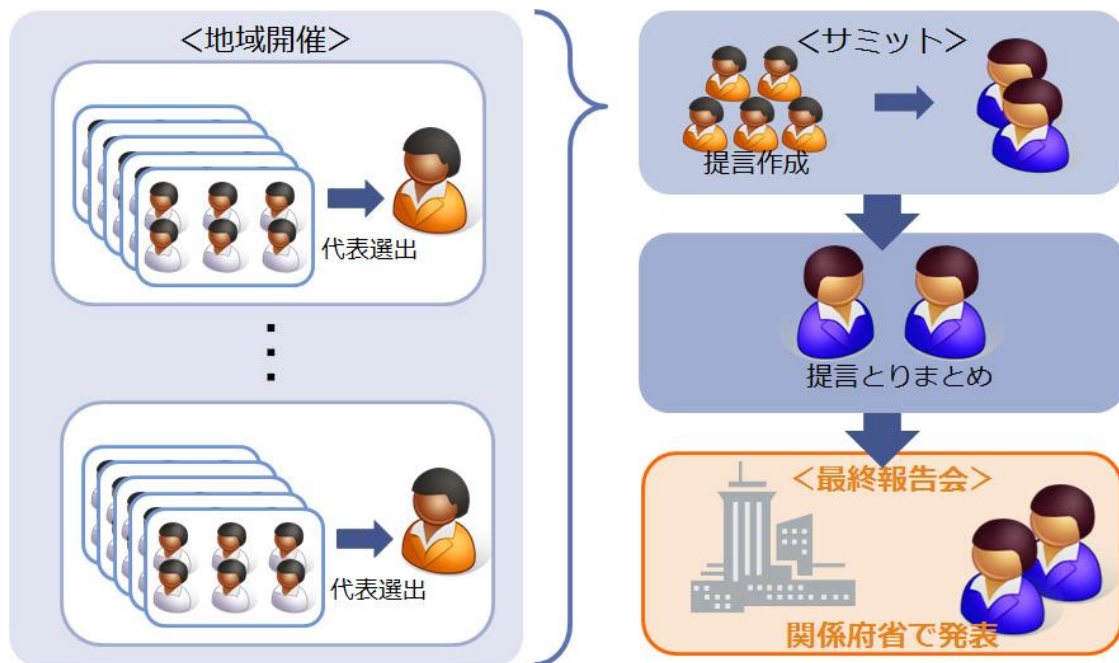
- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 終了後、各校の引率教職員と参加校代表生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表 2 名を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2015 サミットで検討された提言を、選出された代表者 2 名が報告用にとりまとめを行い、関係府省にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを語る。

【報告先予定府省】

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表の画面の撮影（又は画像保存）
- 2) Conference 終了後、発表の画像と併せて高校生 ICT Conference 2015 のサイトにアップデート
- 3) 終了後、講評と併せて、各会場責任者にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2015 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 5) 高校生 ICT Conference 2015 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 6) 最終報告会での発表